

メディア表現を活用した地域文化再考

Reevaluating Local Culture through Media Representation



河村陽介 KAWAMURA, Yosuke

中部大学人文学部コミュニケーション学科講師

愛知県出身。名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻修了。修士（工学）。専門分野はメディアアート、情報デザイン。メディア表現を使った地域文化資源の再考と再構築をテーマとする。主な活動として「Locus Faber Tsukurocca（あいちトリエンナーレ2016）」、移動型ミュージアム「MOBIUM」（2005～）運営など。

ABSTRACT

The purpose of this project is to rediscover and create new attractions by rethinking tangible local crafts and specialties, and intangible local cultural resources, such as festivals and customs, by incorporating new design techniques. In this project, we investigated the possibility of using cactus as a material for design and crafts and conducted experiments in cactus paper-making and trial production of products using cactus as a motif. In the next fiscal year, the project aims to strengthen cooperation with local governments and producers, improve products through exchanges of opinions, and disseminate the attractiveness of local culture.

1. 研究目的と背景

本プロジェクトは地域特有の工芸品・特産物などの有形のものや、祭・風習などの無形の地域文化資源について、新しいデザイン手法を取り入れて再考し、魅力の再発見・創生を行うことを目的とする。

伝統的工芸品産業振興協会によると、伝統工芸や芸能などの地域文化は高齢化や環境の変化など様々な理由により失われつつある。一方で、「地域独自の文化を見直そうとする風潮の高まり」「『和』の暮らしや『ものづくり』に対する再評価」「循環型経済社会を体現している産業であるという評価」などが述べられており、古き良きものや地域の資源を見直す動きが近年みられる。

特に伝統的な文化への関心の薄れに対し、本プロジェクトでは地域の文化や資源などを再考し、近代的な技術やメディア表現と組み合わせることで、地域文化への魅力を再発見し、関心を高めることを目標としている。

2. 活動内容

初年度の活動として春日井市をはじめ愛知県の市区町村の地域文化、地域資源のリサーチを行い、どのように活用できそうかアイデアディスカッションを経て素材を使った実験や試作の制作を行った。活動プロセスは主に「文献やフィールドワークによるリサーチ」「調査をふまえたアイデアディスカッション」「試作を行うプロトタイプ制作」「外部のフィードバックを得るためのプレゼンテーション」の4つの工程で実験と検証を繰り返し行なっていく。

2.1 サボテンのプロトタイピング

春日井市の伝統工芸に関する調査を行ったところ、地域特有の工芸品の資料発見に至らなかった。そこで春日井市を代表する地域資源としてサボテンに着目した。春日井市では昭和28年頃から市内の農家がサボテンの生産を始め、現在では「春日井サボテン」として観賞用、食用などでブランド化されている。本プロジェクトではサボテンをマテリアルとして捉え、デザインや工芸

品などに活用できないか調査を行ない、サボテンの紙漉き実験や、サボテンをモチーフにしたプロダクトの試作を行った。試作はブラッシュアップを重ね、学内外の展示などでフィードバックを得た。

2.2 リサーチとアイデアディスカッション

サボテンの特性を知るために、サボテン農家である後藤サボテンの見学やサボテンを粉碎して和紙の試作を行うなど素材の調査を行った。調査をふまえサボテンを素材として扱ったもの、形状をモチーフに考えたアイデアなどが出た。アイデアを共有しディスカッションで独創性、実現性などを検討し実際に制作する案を絞った。



図1. 素材として使用するウチワサボテン 図2. サボテンを主題に制作アイデアを検討

2.3 サボテン和紙の実験

サボテンを使った和紙のアイデアを出したチームを中心に、和紙の原料となるコウゾにサボテンを配合した紙漉きの実験を重ね、体験を通じて実践的な制作を行った。豊田市小原の紙漉き工場の職員に協力をしてもらい、より高度な紙漉きの実験を行った。実験では多肉植物のアガベの繊維とサボテンを混合した方法も行ったがアガベの生産量が少ないことと繊維の処理が難しかったことから、伝統的に使われているコウゾを配合することにした。また、紙漉きの工程で均質な状態にするために「ネリ」と呼ばれる素材として一般的にトロロアオイが使われるが、サボテンの粘りがネリとして使えることがわかった。サボテンとコウゾの割合は図4の上段左が1:1、下段左が2:1である。サボテンの割合を増やすと緑色が強く出るが、割合を3:1以上になると強度が弱くなり、ボソボソと崩れるようになった。サボテン特有の風合いはであるが、実用する場合は薄くコウゾの膜をもう一層紙漉きするといいと職員からアドバイスをもらった。



図3. サボテン和紙の制作工程

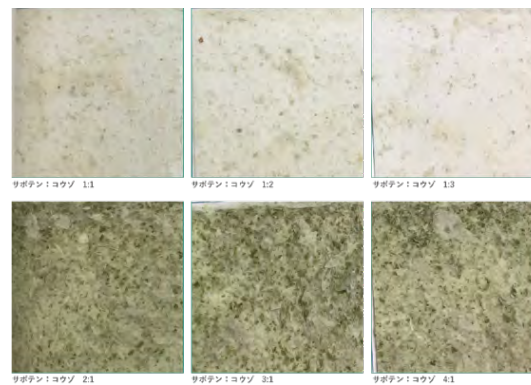


図4. サボテン和紙見本 アガベなどの繊維やコウゾとの比率を変えて実験

2.4 制作物

制作物はサボテン和紙を使ったものや、サボテンをモチーフにしたゲームなどのインタラクティブコンテンツ、3Dプリント作品などを制作した。

サボテン和紙を使用したものとして、「うちわサボテン」は通常の紙漉きで制作したサボテン和紙を貼り付けたもの（図5右）とうちわの骨に直接紙漉きを行ったもの（図5左）を制作した。直接紙漉きしたものはムラがあり、独特の風合いが出ている。

「Lightなサボテン」はサボテン和紙を使用した工芸品の提案として制作した。鉢植えとランプシェードのフレームの部分は3Dプリンターで出力した造形物を使用しており、フレームの部分に直接紙漉きを施している。これは和紙工芸などでみられる立体紙漉きによる技法である。繊維のまとわりつきとサボテンの素材感が光に透けて独特の風合いを出している。



図5. うちわサボテン



図6. Lightなサボテン

「サボってる」はサボテンをモチーフに制作したインタラクティブマスコットである。ふだんは寝た状態（サボっている）であるが、鉢植え部分にカメラが内蔵されており、人の顔を認識するとモーターの駆動により真っ直ぐに立つ、という部屋に置くことを想定したゆるいマスコットとして制作した。

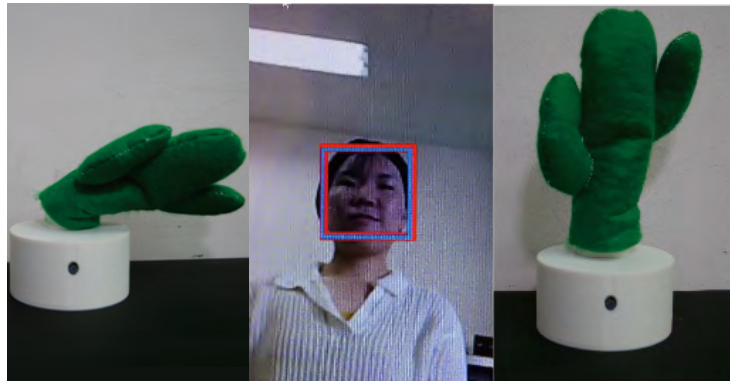


図7. サボってる

「俺はサボテン」はサボテンをモチーフに制作したゲームコンテンツで、7日間でサボテンを成長させ条件によってエンディングが変化するサボテン育成ゲームである。



図8. 俺はサボテン

「サボハンド」はサボテンをモチーフに制作したインタラクティブ作品で、手の動きに反応して形状を変化させる。サボテンは漢字で仙人掌と表記されることから着想し、初期の試作ではオープンソースのモデルデータを使い3Dプリンターでロボットハンドを制作しサボテンをイメージしたカバーを被せたが、制御が難しかったため、次の試作では手の形に連動するサボテンの鉢植えというコンセプトで制作した。



図9. サボハンド

サボテンをモチーフに3Dプリントで造形したものとして、軟質素材を使ったフレキシブルライトやペン立て、鉢植えに使える入れ物、サボテンのキャラクターなどを制作した。

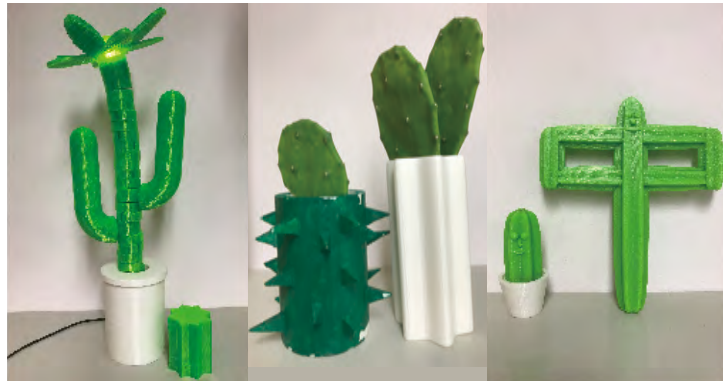


図10. 3Dプリント作品

(左) 自由自在サボテンライト (中) サボテンペン立て (右) サボキャラクターズ

また、実験中のものとして、サボテン和紙の耐久性（特に色褪せなど）の検証と、セラミック3Dプリンターを使った練込みや釉薬などサボテン配合の陶器の制作実験を行っている。

3. まとめと今後の課題

今年度は主に春日井のサボテンを題材に調査と試作を行い、素材の特性を制作物に取り入れることができた。しかしながらリサーチと試作が主となったため、地域との連携が課題となった。次年度は自治体や生産者などとの連携を強め、意見交換による制作物の改善と地域文化の魅力を発信することを目指したい。また、その他の活動として、3Dスキャンを用いた点群データ活用、春日井の史跡を題材としたゲーム作品、春日井の名所の写真展を行うメタバース、新城市の手筒花火の伝承冊子作成、稲沢の藁細工のアーカイブとリデザイン、自治体の非公式キャラクター制作、地域特有の石を使った楽器制作・キーボード制作などが進行中であり、次年度の活動として報告したい。

参考文献

伝統的工芸品産業振興協会・<https://kyokai.kougeihin.jp/current-situation/> (2024.1.30)

春日井市HP・<https://www.city.kasugai.lg.jp/business/1009248/kanko/cactus/1024776.html> (2024.1.30)

制作

「うちわサボテン」生田紋菜 岩井優奈 田牧朋花 「Lightなサボテン」生田紋菜 岩井優奈 田牧朋花

「サボッてる」発案：生田紋菜 制作：伊藤敬子 「俺はサボテン」横江玲哉 山口生翔 岩山翔瑛

「サボハンド」鎌倉飛鳥 「自由自在サボテンライト」池永達泉 「サボテンペン立て」上田悠真

「サボキャラクターズ」岩山翔瑛

監修 河村陽介